

佳作

小児科の先生から卒業

香川県 高松市立高松第一中学校三年 笠原 颯心

今日は、小児科の診察でした。

ここ最近は何に一回の検診です。いつも通りに受けをして僕の番です。毎回同じような診察で終わります。先生に

「もう小児科は卒業。」

と言われました。来年はもう、高校生になるから大人と同じような小児科じゃない所に行くそうです。先生に診てもらおうようになって十五年たちます。

僕は高松赤十字病院で産まれました。産まれた時からいろいろな所が悪くて、その先生が僕の主治医となりました。

鼻の穴、胸、心臓、肺、脳、全部が完璧ではなかったです。それを少しずつ普通の生活ができるように治してくれたのがその先生です。だから、少しでも体調が悪くなると全部先生に診てもらっていま

した。

六カ月のときに水頭症という病気になりました。急いで病院へかけこみ、先生に診てもらおうと先生がすぐに気付いてくれて、手術をしました。発見が遅かったら今みたいな生活はできていなかったそうです。

今こうして、大好きな学校に通ったり普通の生活をしたりしているのが奇跡だということを聞きました。それからずっと先生の検診に通っています。友達のように

「よっ！」

と言って診察室に入り、おもちゃで遊んだり、いろんなお話をして先生は診察をしてくれています。僕の成長を見るためです。だから先生は僕の顔色や表情、しぐさで何でも分かるそうです。

小三の夏休みの時の検診で心臓の音が悪くなっていると言われました。日赤には小児心臓外科がないので普通寺の病院を紹介してもらいました。先生がない病院は不安だったけど、仕方ないのでそこにお世話になりました。手術をして普通の生活ができるようになりました。また、先生の検診を受けるようになります。なんだか先生の検診を受けると安心し

ます。

あの時、先生が発見してくれていなかったらと思
うと僕はぞっとします。

こうして僕には先生がなくてはならない存在にな
りました。たぶん僕の両親も、同じだと思えます。
なのに、卒業と言われました。今度は小児科ではな
く大人と同じ内科や外科、いろんな科に行きます。
そんなことを考えたことがなかったのでびっくりし
ました。

ずっと先生が診てくれると思っていたから。

でも、それが大人になることなんだなと思いまし
た。うれしいような切ないような気持ちです。これ
からちょっと不安で心配ですが、僕も大人になっ
ていきたいと思います。

大人になっていくといろんなことを卒業して新し
いことを自分でできるようになっていかなくは
けません。大丈夫かなと不安になることばかりです
ががんばりたいです。

先生、今まで見守ってくれてありがとうございます
でした。

僕は先生を卒業します。